

発刊の言葉

硬式野球部松陵会会长

太田 久



全国高等学校野球選手権大会は、大正4年に時代を担う青少年の心身共に健全なる育成を目的として開催された。大正、昭和、平成と進み、その精神は「教育の一環としての高校野球」として隆昌をきわめてきた。

昭和4年、桜並木に囲まれた樽子山に、野球部が創設され、77年目を迎えるにあたり、ここに松陵球児の部史編纂の機会を得、不肖、私が発刊の言葉を申し述べることは、この上もない喜びであり、までもって厚く御礼を申し上げたい。

難業を双肩に担いながら、幾星霜、流れる時代^{とき}を越え、年輪を重ね、隘路険峻を踏破し、幾多の困苦艱難に堪え、歴史は我々に何を伝え、何を示唆してくれるのか。単なる感傷的な思考に更けることではなく、血と汗と涙の積み重ねによる「伝統」と「松陵魂」が、この年輪に深く刻まれていることを決して忘れてはならない。

大きな志を抱いて入学し、夢と希望に燃えて入部してきた多くの球児達が、汗と涙のにじむような勝利への道程こそ、能代中学、能代高等学校野球部の伝統として、今も脈々と生きていると思う。

現役の諸君よ。君達には、この歴史の中に流れる尊い伝統と松陵魂を至福と思い、諸先輩が歩んだ、又やがて松陵会員として良き先達になる為にも、心の糧の一片としてもらいたい。歴史はあくまでも過ぎ去りしものではあるが、新たな未来を創造する大きな力とも言えよう。

そもそも、学生野球の本義とは、野球を通して教室では学べない実践の教育を身につけることである。人間形成を目的とした学校が認めた部活動であるからこそである。

野球は運動競技であるから、あくまで勝利に向かって邁進しなければならない。そのために、平素技術の鍛錬と不断の研鑽、闘魂の育成に努めなければいけない。ひたむきに、精根の限り、勝利への道へ奮闘する。ここに学生野球の真髓と誇りがある。明大時代の部長武田孟先生（元日本学生野球協会長・明大総長）が説いている。これが、私のバックボーンである。

時代あたかも、母校秋田県立能代高等学校は、創立80周年記念を迎えている。時代は、今や、変革の最も厳しさを増している。しかし、我が野球部にはどんな時でも打ちひしがれることのない、校訓「至誠力行」のもと、強い「伝統」と「松陵魂」がある。

これからも永遠に続く野球部の未来が、同じ目標を持ち、荒ぶる君達が新しい歴史を創る原動力になってほしい。甲子園、夢の深紅の大旗に挑戦してもらいたい。必ずや、いつの日か…。高校球児の王道を究め、突き進む為にも。

心身の鍛練、社会生活に欠くことのできない協同精神や自己責任、沈着冷静で機敏に満ちた動作等は激しい練習を続ける部活動を通して訓育される。松陵会員各位が社会の各分野で存分にその力を發揮しておられるのも野球部での頑張りがあったからこそと思われ喜びにたえない。また、散華し、病魔に侵され、志なかばで物故された多くの先輩諸兄のご冥福を心からお祈り申し上げる。

おわりに、この発刊に携わった委員各位のご労苦に、敬意と感謝を表すと共に、貴重なる資料、原稿などご提供いただいた皆様に厚くお礼を申し上げる。

この書の発刊を機に、能代高等学校野球部が尚一層、大きく飛躍され、我々松陵会員の絆が、更に太く、強くなることを祈念して発刊の挨拶とする。

運去 黄金失色（運去りて 黄金 色を失い）

時来 鐵矢争光（時來たりて 鐵矢 光を争う）

過ぎし遠い日、墨穂先生（現能代高等学校同窓会会长田中仁純氏ご尊父）からいただいた扁額の一節を記して擱筆する。